

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年3月13日(2014.3.13)

【公表番号】特表2013-518311(P2013-518311A)

【公表日】平成25年5月20日(2013.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2013-025

【出願番号】特願2012-551227(P2012-551227)

【国際特許分類】

**G 02 B 6/44 (2006.01)**

【F I】

G 02 B 6/44 3 8 1

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月21日(2014.1.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 不透水性の熱可逆性架橋ポリマーコーティングでコートされた150～1200dexの線密度、10～65g/dexの韌性、150～2700g/dexの弾性率、および1～8パーセントの破断点伸びを有する第1の強化糸を、保護コーティングを結合切断によって水膨潤性高吸収性ポリマーに変換するために十分な時間の間45～200の温度にかける工程と、

(b) 工程(a)からの前記第1の強化糸の1つまたは複数を1つまたは複数の光ガラスファイバー伝送媒体と組み合わせる工程と、

(c) 保護スリーブを工程(b)の少なくとも1つのアセンブリの上に適用する工程とを含む、ファイバー光ケーブルアセンブリを形成するための方法。

【請求項2】

請求項1に記載の方法によって製造されたファイバー光ケーブル。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

比較例Aと比較したとき、実施例1の膨潤度がほとんど10倍増加したことは、権利請求された方法の有効性を示す。

以下、本発明の態様を示す。

1. (a) 不透水性の熱可逆性架橋ポリマーコーティングでコートされた150～1200dexの線密度、10～65g/dexの韌性、150～2700g/dexの弾性率、および1～8パーセントの破断点伸びを有する第1の強化糸を、保護コーティングを結合切断によって水膨潤性高吸収性ポリマーに変換するために十分な時間の間45～200の温度にかける工程と、

(b) 工程(a)からの前記第1の強化糸の1つまたは複数を1つまたは複数の光ガラスファイバー伝送媒体と組み合わせる工程と、

(c) 保護スリーブを工程(b)の少なくとも1つのアセンブリの上に適用する工程と

を含む、ファイバー光ケーブルアセンブリを形成するための方法。

2 . 少なくとも 1 つの第 2 の強化糸が工程 ( b ) において前記第 1 の強化糸およびガラス  
ファイバー伝送媒体と組み合わせられていてもよい、上記 1 に記載の方法。

3 . 前記第 1 の強化糸の前記ポリマーが、p - アラミド、ポリベンザゾール、ポリピリダ  
ゾールまたはそれらの混合物からなる群から選択される、上記 1 に記載の方法。

4 . 前記熱可逆性コーティングの熱可逆性架橋剤が、第 1 の強化糸とコーティングとの総  
重量に基づいて 0 . 0 0 1 重量 % ~ 0 . 5 重量 % の量で存在する、上記 1 に記載の方法。

5 . 前記熱可逆性架橋コーティングが、前記第 1 の強化糸とコーティングとの総重量に基  
づいて 0 . 1 重量 % ~ 1 0 重量 % の量で存在する、上記 1 に記載の方法。

6 . 前記 p - アラミドがポリ ( パラフェニレンテレフタルアミド ) である、上記 3 に記載  
の方法。

7 . 上記 1 に記載の方法によって製造されたファイバー光ケーブル。